

製品名: ATRX ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07357**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	ATRX
別名	ATRX; RAD54L; XH2; Transcriptional regulator ATRX; ATP-dependent helicase ATRX; X-linked helicase II; X-linked nuclear protein; XNP; Znf-HX
遺伝子 ID	546.0
SwissProt ID	P46100
免疫原	抗血清はヒト ATRX 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 111-160

背景

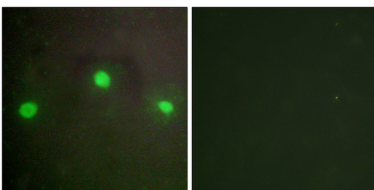
ATRX、クロマチンリモデラー(ATRX) Homo sapiens この遺伝子によってコードされるタンパク質は ATPase/ヘリカーゼドメインを

含み、したがってクロマチンリモデリングタンパク質の SWI/SNF ファミリーに属します。このタンパク質は細胞周期依存性リン酸化を受けることがわかっており、それがその核マトリックスとクロマチンの会合を制御しており、有糸分裂の間期および染色体分離における遺伝子制御に関与していることを示唆しています。この遺伝子の変異は、X 連鎖性精神遅滞 (XLMR) 症候群と関連しており、最も頻繁に伴うのはアルファサラセミア (ATRX) 症候群です。これらの変異は DNA メチル化パターンに多様な変化を引き起こすことが示されており、これは発生過程におけるクロマチンリモデリング、DNA メチル化、および遺伝子発現の間の関連を示している可能性があります。異なるアイソフォームをコードする複数の選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。 [RefSeq 提供、2013 年 8 月]、疾患: ATRX の欠陥は、 α -サラセミア骨髄異形成症候群 (ATMDS) [MIM:300448]の原因です。この疾患では、 α -サラセミアは、多系統骨髄異形成症に伴う後天的な異常として発生します。、疾患: ATRX の欠陥は、精神遅滞症候群性 X 連鎖性低張性顔面症候群 1 型 (MRXSHF1) [MIM:309580]の原因です。この症候群は、カーペンター・ワジリ症候群 (CWS)、ジュバーク・マルシディ症候群 (JMS)、スミス・ファインマン・マイヤーズ症候群 1 型 (SFM1) と呼ばれます。臨床的特徴には、重度の精神遅滞、顔貌異常、および保因者女性における X 染色体不活化パターンの著しい偏りなどがあります。その他のより多様な特徴としては、性腺機能低下症、難聴、腎奇形、および軽度の骨格異常などがあります。、疾患: ATRX の欠陥は、X 連鎖 α サラセミア/精神遅滞症候群 (ATR-X) [MIM:301040]の原因です。ATR-X は、重度の精神運動遅滞、顔面異形、泌尿生殖器異常、および α サラセミアを含む X 連鎖疾患です。必須の表現型形質は、ヘモグロビン H 赤血球封入体です。、ドメイン: クロモシャドウドメインとの相互作用に必要な 1 つの Pro-Xaa-Val-Xaa-Leu (PxVxL) モチーフが含まれます。このモチーフは、クロモシャドウドメインと接触する中央の Val の -7、-6、+4、および +5 の残基を必要とします。、機能: 全体的な転写調節因子である可能性があります。クロマチンに影響を及ぼすことで遺伝子発現を変更します。脳の発達と顔面形態形成に関与している可能性がある。、PTM: DNA 損傷時に ATM または ATR によってリン酸化される。、類似性: SNF2/RAD54 ヘリカーゼファミリーに属する。、類似性: GATA 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。、類似性: ヘリカーゼ ATP 結合ドメインを 1 つ含む。、類似性: ヘリカーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。、類似性: PHD 型ジンクフィンガーを 1 つ含む。、細胞内局在: 間期および有糸分裂期に、おそらく HP1 との相互作用を介して、セントロメリックヘテロクロマチンと関連する。、サブユニット: おそらく EZH2 に結合する。カルシウムおよびホスファチジルコリン / ホスファチジルセリン依存的にアネキシン V に結合する (類似性に基づく)。PxVxL モチーフを介して CBX5 と直接相互作用する。、組織特異性: 普遍的。、

研究分野

-

画像データ



ATRX 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。